

秋大根の不時抽苔を防ぐ対策

中原忠夫

た大根の品質も劣ります。そこで不時抽苔を少しでも抑え、良品を生産する技術を考え見ましょう。

昨年は秋大根の不時抽苔が各地で見られ

問題になりました。かつて昭和二十八、九年にも相当の不時抽苔をおこしたことあります。この両年は冷害に見舞われた年で、七月、八月上旬に低温期があります。そこで昨夏の気温を調べてみると、第一表の様に北海道で比較的気象条件のめぐまれている札幌、旭川でさえ、七月～八月上旬の気温は平年に較べかなり低く、最低気温が十二度C前後の日も再三ありました。まして道東、道北、山間部では最低気温の低い日が多かった事と思います。

大根の不時抽苔の原因については稚苗時の低温の影響によって花芽が分化し、その後適当な高温条件などによって抽苔、開花へ進むということが明らかにされており、これをまとめて見ると次の様になります。(本誌の第四卷第六号、第十三卷第十号に抽苔原因をくわしくとりあげてありますので参照して下さい。)

稚苗期↑十二度C以下の低温(発芽当時の感応大きい)

花芽分化

生长期↑高温、長日
不良環境(栄養条件)

り、収穫し
抽苔したと
なれば収穫
本数も減

抽苔開花

昨年は花芽分化を惹き起す低温が再三訪れた上に、八月中旬以降高温に見舞われたので抽苔開花に好都合だったところから適

苔が起つたものと云えましよう。

今年も長

期予報によ

りますとほ

ぼ前年同様

七～八月に

低温に見舞

われるとい

うことな

で不時抽苔

の心配があ

ります。切

角丹精をこ

めた大根が

ります。切

なれば収穫

本数も減

一 早播はさけて適期に播種いたしま

しょう

札幌を中心とした播種適期は八月五日前後とされていますが、道東、道北에서는生育期間、温度の関係から多少早播が必要でしょう。しかし不時抽苔の多かった年は七月下～八月上旬に低温に見舞われておりますのでなるべく晚播して、生育のおくれを栽培管理によって補うべきです。

最近一部で青首大根を有利に販売できるところから、苔立ちの危険をおかして早播されているが経験をつんだ上でないと失敗する場合が多いようです。

二 品種の選択

一般の秋大根についてみると花芽分化の感応温度は品種間による差が少ないようですが。しかし太りの早さ、土質適応性の点から見て宮重青首系の源助大根、宮重総太り大根は播種期の幅があります。

美濃早生大根は花芽分化の感応温度が他の品種より低く、八度C前後の日で早播ができます。札幌附近で七月十日以降に播くと抽苔の心配はありません。美の早生大根は生育が早く、暑さにも強いが、入りが早いので播種後六十日位で収穫しなければなりません。秋大根の抽苔のおそれのある場合の早播に美の早生をお使いになるのが安

三 肥培管理に注意しましょう

秋大根の抽苔は花芽の分化によって初まり、花芽が発育してひきおこすもので、花芽の発育に最も影響のあるのは高温、長日ですが、さらに栄養条件によつても左右されます。適温にめぐまれ、充分施肥して栽培すれば抽苔は少なくなります。また稚苗時に葉を一～二枚除いたものは、処理しないものよりも七月～一〇日早く抽苔したといふ実験もあって、同一条件下でも間引の時期、稚苗時の病害虫の被害程度によって抽苔に差があらわれてまいります。従つて同一地区にても隣の大根畠の抽苔は少ないの

に家の多かったというようなことがおこりうるわけです。要するに合理的な施肥を行ない病害虫の防除は早めにして、間引除草作業も適期に進めることができ順調な生育を続けざるものになります。そうすることによって抽苔を抑え、しかも良質大根を収穫することができます。

(上野幌育種場)